

JOMF 派遣医師便り (2014. 4)

◆マニラ◆

デング熱とインフルエンザが同時に流行する季節が来ます

マニラ日本人会診療所

菊地宏久

もうすぐデング熱とインフルエンザが“同時に流行”する時期がきます。マニラ日本人社会においても、これらの二つの疾患は近年 7～9 月（日本の夏）に流行のピークをむかえています。デング熱に対してもワクチン開発が期待されていますが、現時点ではまだありません。皆さんも普段に増して体調を気遣うなどの注意が必要です。今回は“マニラのデング熱”について話します。

マニラ日本人社会においてデング熱の発症は年間を通して見られますが、蚊が繁殖しやすい当地の雨季（日本の夏）に大きな流行が見られます。受診する患者さんの多くは「突然の高熱」を主訴に来院しますが、「眼の奥が痛い」という症状を伴う方もみられます。ときには高熱は無いが「だるくてしょうがない」、「尿の色が濃い」などの肝炎様症状の方もいます。（血液検査をすると半数以上のデング熱患者さんでデング熱ウイルスによる肝炎を合併しています）。また患者さんの中には「風疹が心配で受診しました」という「発疹のみ」を主訴に来院する方もいます。“同時期に流行するインフルエンザ”に極めて似た症状の患者さんもいます。注意深い鑑別診断が必要です。

デング熱患者さんの多くは発症後 1～2 週間程度で改善傾向に向かいますが、高熱や頭痛、吐き気、下痢や口内炎のために食事摂取が不可能になる患者さんもいます。出血傾向を伴うデング出血熱と呼ばれる重篤な経過をとられる患者さんもいます。これらの場合には入院管理が必要です。

予防は蚊に刺されないことが一番です。デング熱を媒介する蚊（ネッタイシマカ）は夜明け後（朝方）数時間と日没前（夕方）の数時間に吸血が活発であるといわれています。（夜の蚊に注意しなければならないのはマラリアです）。ネッタイシマカは淀んだ池や川、水がたまるような工事現場のバケツや古タイヤ、植木鉢、花瓶などでも発生します。

患者さんの中には「蚊になんか刺されていません、デング熱なんてありえませんか」とお話になる方もいるように、刺された自覚がない方も多いようです。防虫剤も大切ですが、長袖・長ズボン着用などにより蚊に刺されないようにすることも大切です。

デング熱に対するワクチン開発研究も始まっています。

皆様、おからだを大切にしてください。